

6 ペルソナに対する支援策の協議

6-1 支援策協議の概要

モデル8自治会ごとに設定したペルソナへの支援策を協議するため、下記のとおり、支援策検討会議を開催した。

(1) 目的

始良・伊佐地域において、一人暮らしの高齢者や障害者らを中心に、日々の生活に困っている方々（外出困難、交通機関の不足などにより、医療機関への受診や福祉・介護に関するサービス、また、買物などについて、適切な支援を受けられない、又はない方々をいう。以下「困っている方」という。）に対する適切な施策やサービス等を行う生活支援体制を構築するため、令和6年度に実施した各種調査結果を基に、始良伊佐局、各市町、自治会、福祉関係者、事業者等がそれぞれの立場で行うべき具体的な施策を検討する。

(2) 日時、場所

<伊佐市、湧水町の4自治会>

- ・ 令和7年1月23日(木)午前9時半～午前11時半
- ・ 伊佐市役所菱刈庁舎（伊佐市菱刈前目2106）会議室

<霧島市、始良市の4自治会>

- ・ 令和7年1月23日(木)午後2時～午後4時
- ・ 鹿児島県始良・伊佐地域振興局（始良市加治木町諏訪町12）会議室

(3) 協議の手法

ペルソナが抱える課題を抽出し、その支援策を検討する手法として、鹿児島国際大学の高橋信行教授の指導のもと、情報を視覚的に整理し、他者の意見を関連付けながら議論を深めることができる「マインドマップ」を活用した。

マインドマップとは、中心に主題を配置し、そこから関連情報を枝分かれさせて展開する思考ツールである。これにより、情報の関係性を直感的に把握しやすくなり、複雑な課題を整理しながら支援策を導き出せる。ブレインストーミングやプロジェクト計画、学習整理など、幅広い分野で活用されている。

本事業に係る支援策の協議では、例えば、「移動支援」「買物支援」「医療・福祉サービスのアクセス」などの主要課題を分類し、支援策を「行政の支援」「地域住民の協力」「民間サービスの活用」などといった枠組みで整理することできると期待された。マインドマップの放射状の構造によって、参加者が議論の流れを直感的に把握しやすくなり、論点の整理と意見の統合がスムーズに進むことも期待された。

(4) 参加者

参加者の所属については、次のとおり。

<伊佐市，湧水町の4自治会>

- ・ 伊佐市役所 地域振興課，長寿介護課
- ・ 湧水町役場 企画財政課，長寿介護課
- ・ 自治会代表者
- ・ 民生委員
- ・ 伊佐市 社会福祉協議会
- ・ 湧水町 社会福祉協議会
- ・ 伊佐市の民間タクシー事業者

の計11人

<霧島市，始良市の4自治会>

- ・ 霧島市役所 地域政策課，長寿介護課
- ・ 始良市役所 長寿・障害福祉課，地域政策課
- ・ 自治会代表者
- ・ 民生委員
- ・ 霧島市 社会福祉協議会
- ・ 始良市 社会福祉協議会

の計14人

(5) 協議の様子

当日の様子を撮影した画像は次のとおり。それぞれ左が伊佐市会場，右が始良市会場



6-2 支援策協議の場で作成したマインドマップ

自治会ごとに設定したペルソナの課題とその解決策・支援策を協議した際に作成したマインドマップは次のとおり。

(1) 高千穗5区自治会

図 6-2-1-(1) 霧島市・高千穂5区自治会のマインドマップ



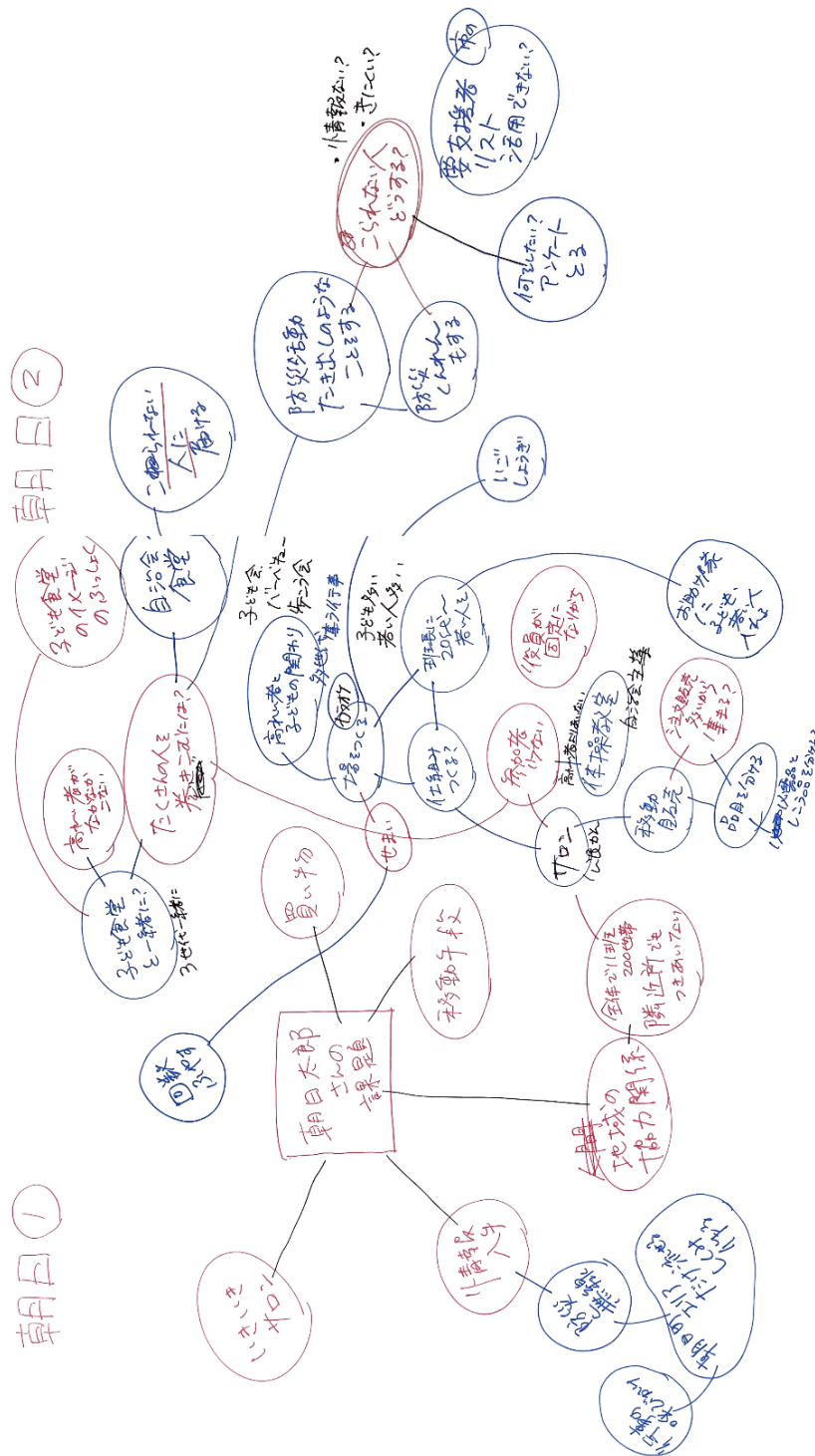
(2) 菩提寺团地自治会

図 6-2-1-(2) 霧島市・菩提寺団地自治会のマインドマップ



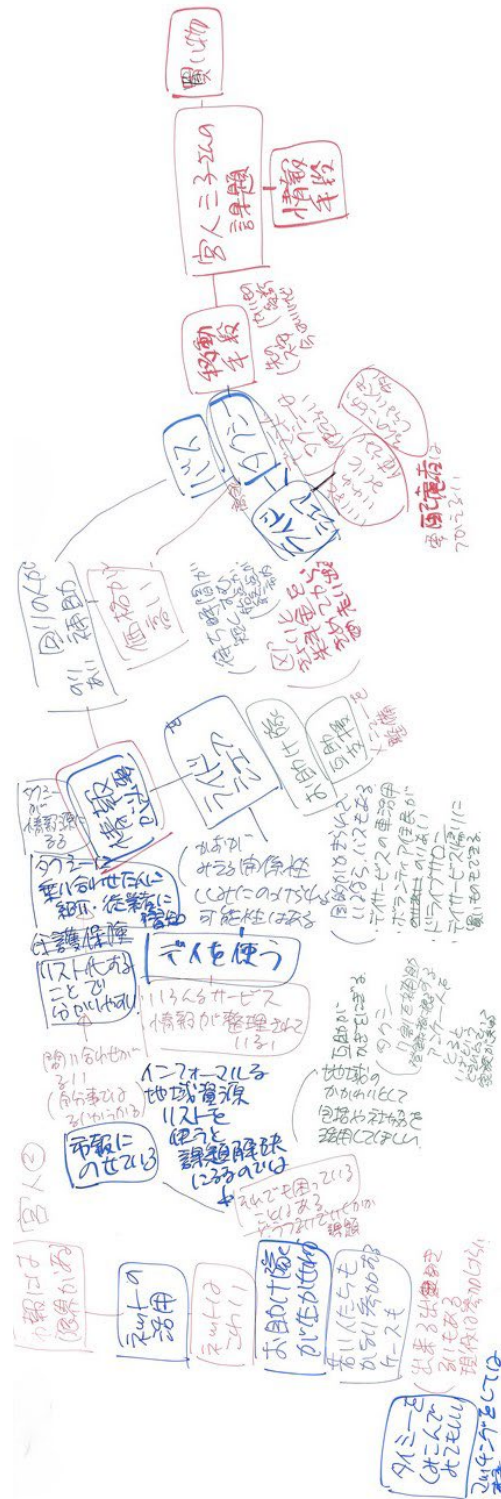
6-2-2 伊佐市
(1) 朝日町自治会

図 6-2-2-(1) 伊佐市・朝日町自治会のマインドマップ



(2) 宮人自治会

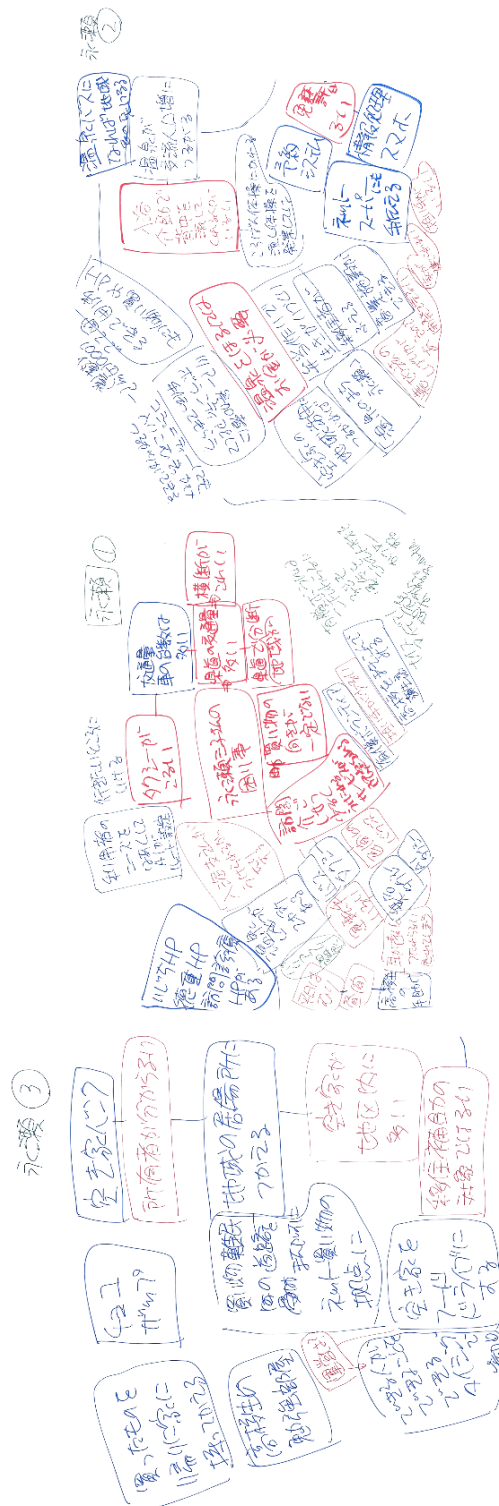
図 6-2-2-(2) 伊佐市・宮人自治会のマインドマップ



6-2-3 始良市

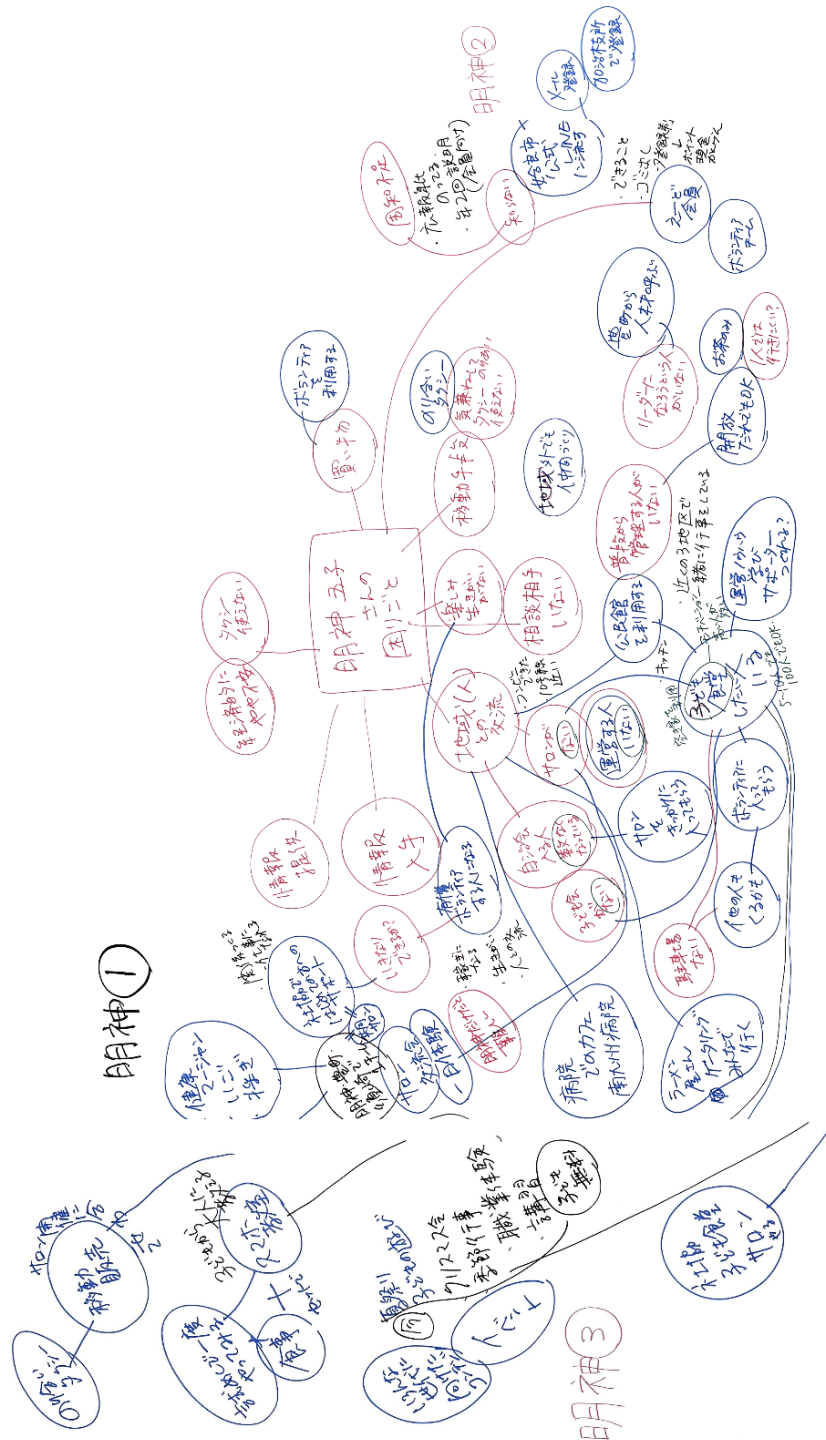
(1) 永瀬自治会

図 6-2-3-(1) 始良市・永瀬自治会のマインドマップ



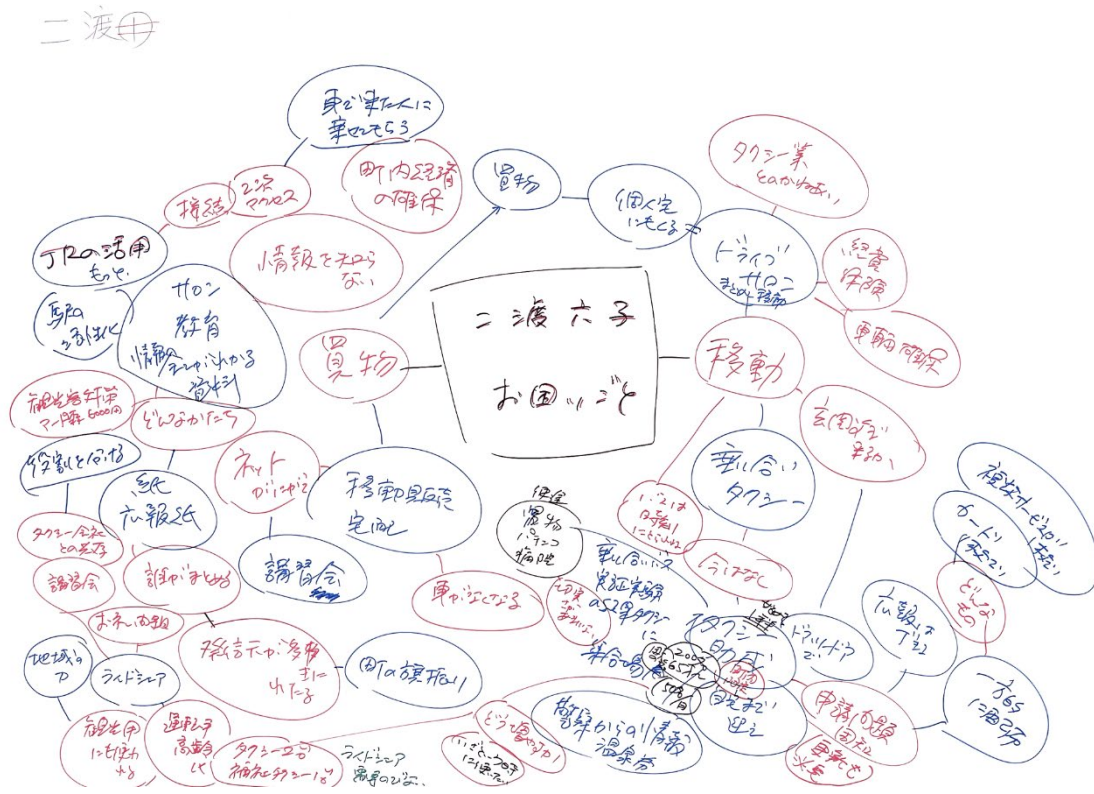
(2) 明神自治会

図 6-2-3-(2) 始良市・明神自治会のマインドマップ



(1) 二渡自治会

図 6-2-4-(1) 湧水町・二渡自治会のマインドマップ



(2) 麓自治会

図 6-2-4-(2) 湧水町・麓自治会のマインドマップ



6-3 マインドマップの整理

モデル8自治会ごとに協議したペルソナへの支援策をまとめたマインドマップについて、移動や買物、情報不足といったカテゴリーごとに課題と支援策をまとめ、整理した。なお、整理するにあたっては、マインドマップを作成し、情報を視覚的に整理できるツールである「Edraw Mind」⁹（エドラマインド）を使用した。

調査受託者において行った整理した手順は次のとおり。

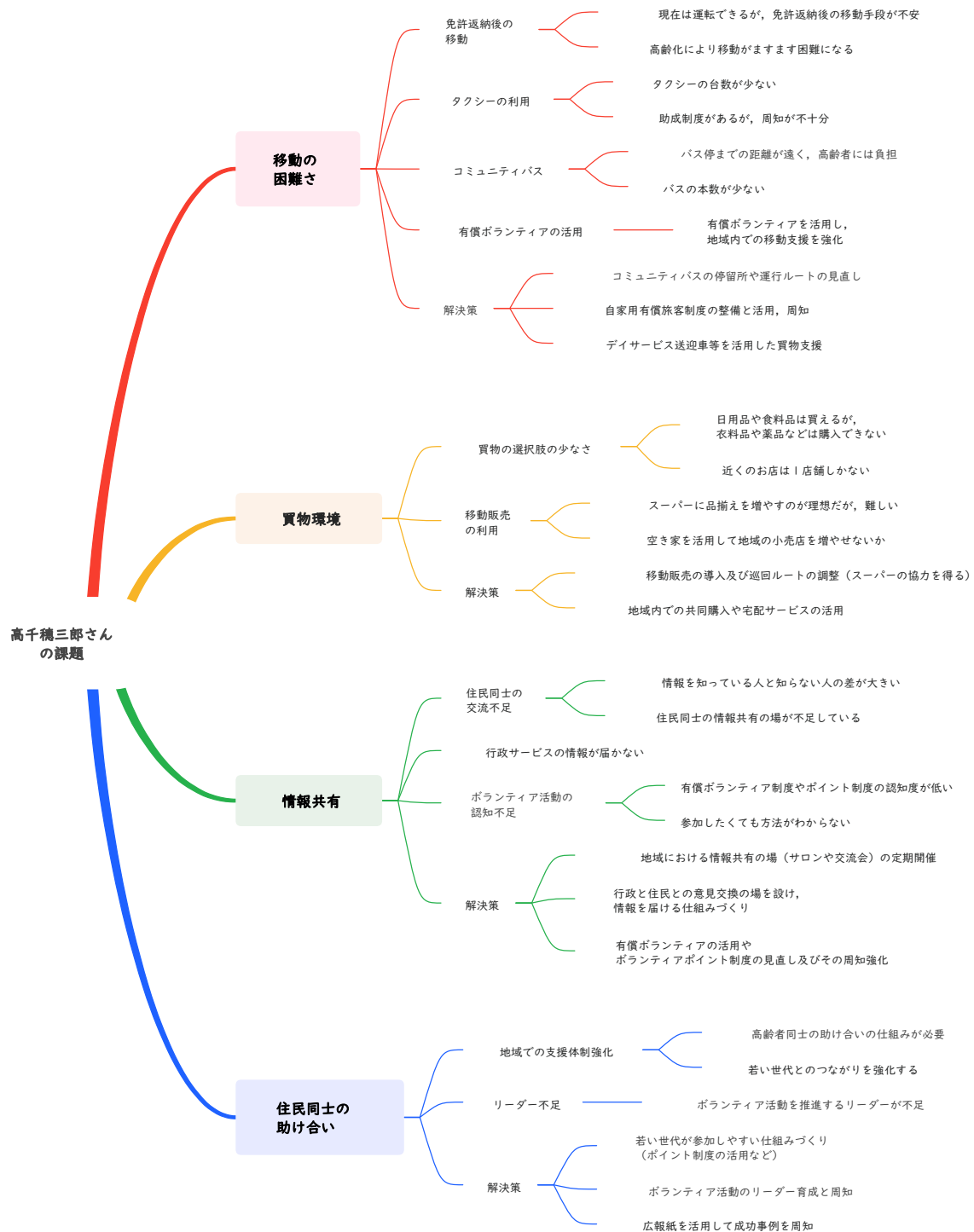
1. 支援策協議の場で作成したモデル8自治会のマインドマップから文字データを抽出
2. テキスト化された文字データと当日の支援策協議の場で交わされた内容等を精査
3. 大項目となる課題を4～6つほど推定して選定
4. 大項目となる課題に対応する文字データ及び協議内容をグループ化
5. 各大項目ごとに、課題とその解決策（支援策）となりうる項目を紐づけてレベルダウンさせながら整理
6. 紐づけされた課題とその支援策について記述化
7. Edraw Mind においてアウトラインを制作して作図

⁹ Edraw Mind は、直感的な操作でアイデアを整理できるとされ、ブレインストーミング、プロジェクト管理、学習計画、プレゼンテーション作成など、幅広い用途に活用されている。複雑な情報の整理やアイデアの発展を視覚的に把握しやすくなり、議論の流れを明確にすることができる。特に、課題の洗い出しや解決策の検討に適しており、問題の本質を明確にししながら、関係性を整理し、具体的なアクションへとつなげることが可能であるとされる。

6-3-1 霧島市

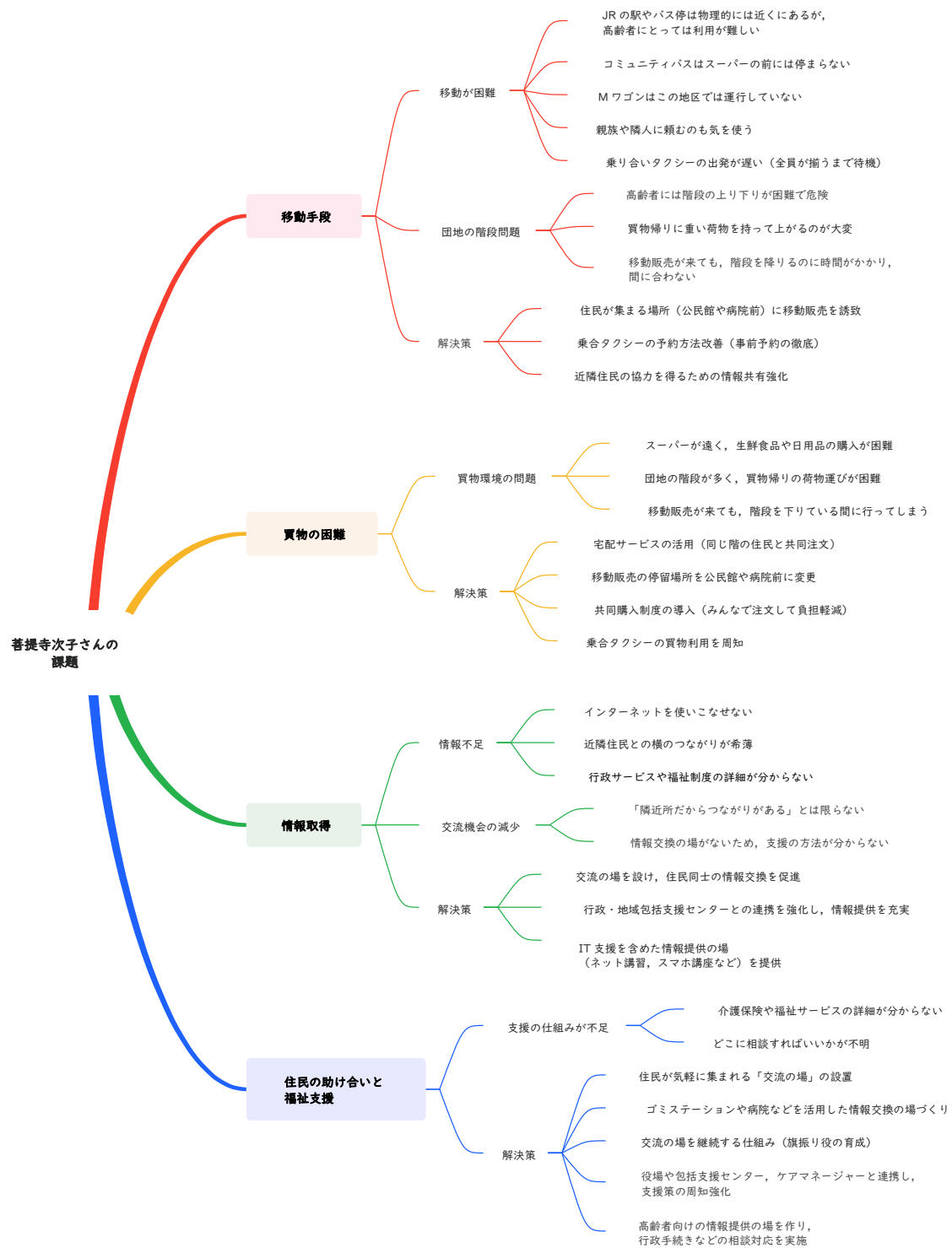
(1) 高千穂5区自治会

図 6-3-1-(1) 霧島市・高千穂5区自治会のマインドマップ



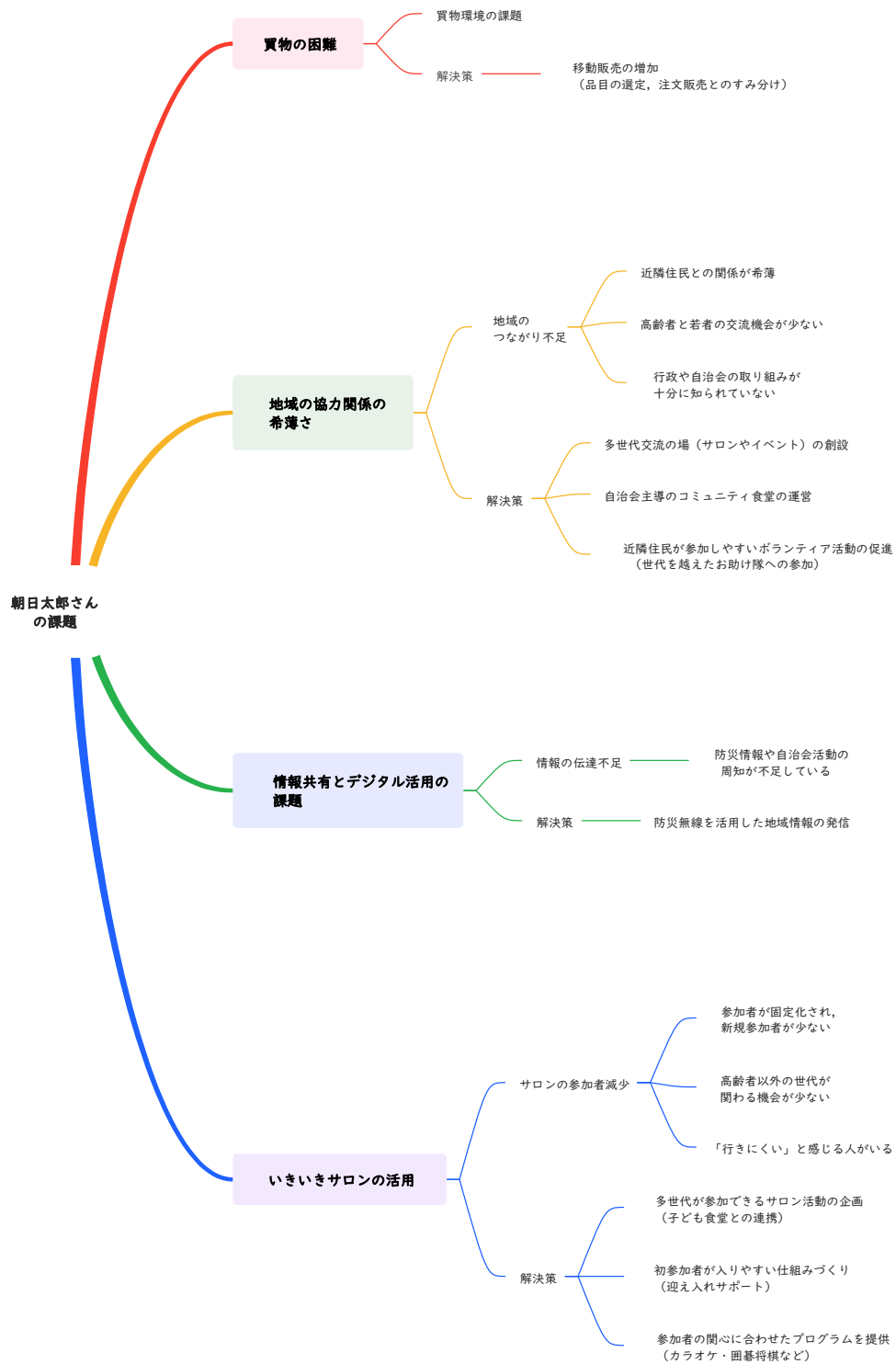
(2) 菩提寺団地自治会

図 6-3-1-(2) 霧島市・菩提寺団地自治会のマインドマップ



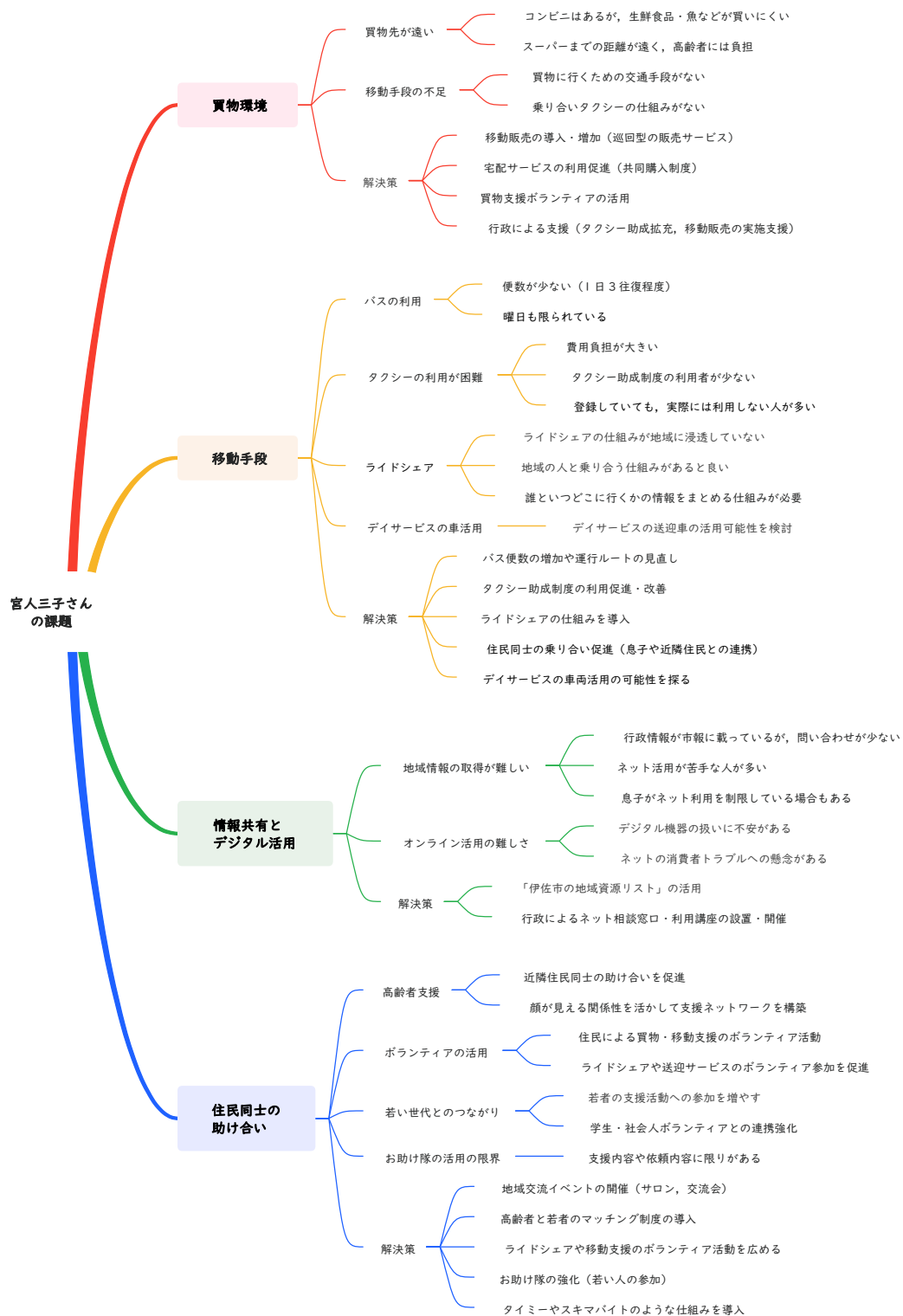
6-3-2 伊佐市
(1) 朝日町自治会

図 6-3-2-(1) 伊佐市・朝日町自治会のマインドマップ



(2) 宮人自治会

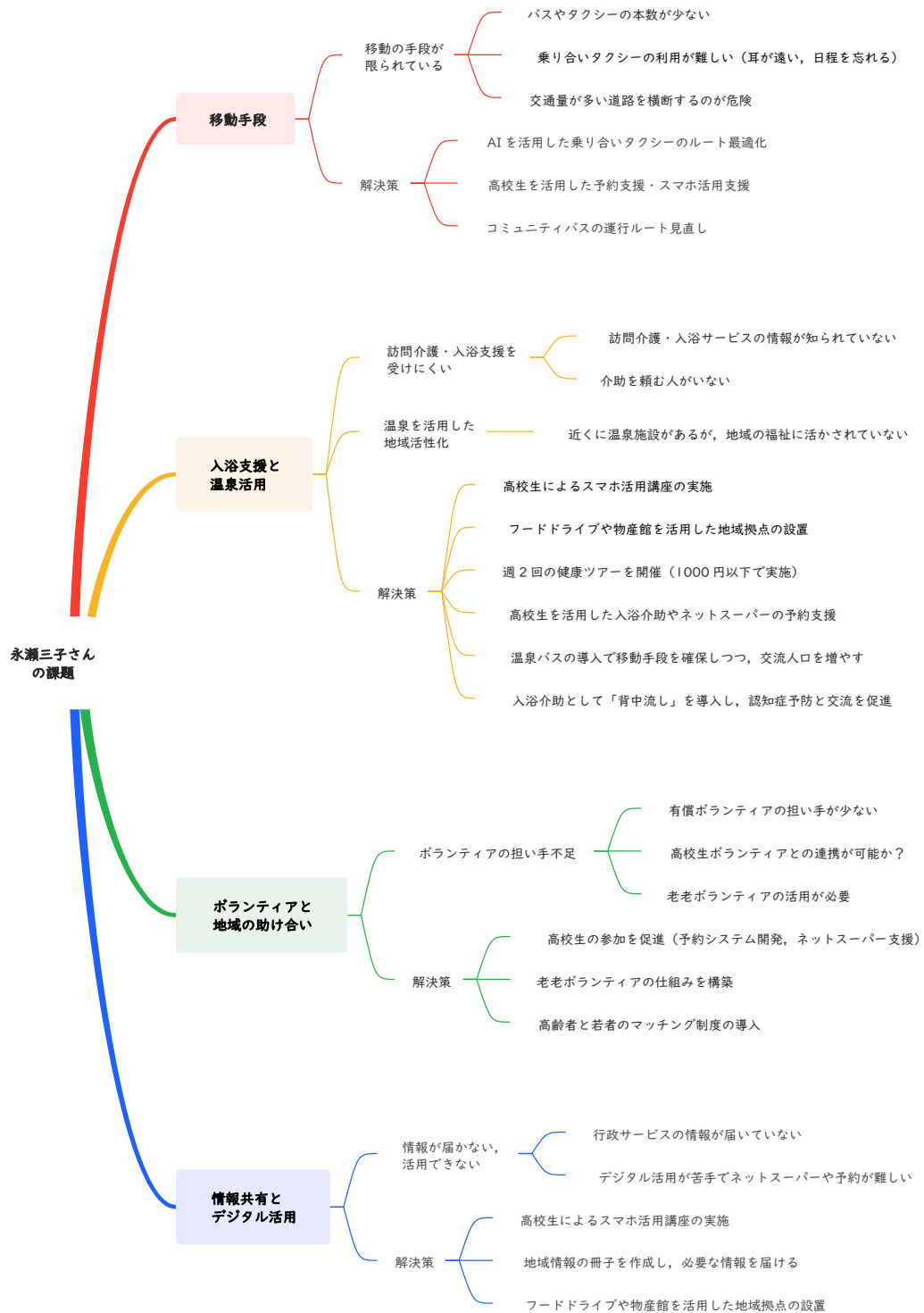
図 6-3-2-(2) 伊佐市・宮人自治会のマインドマップ



6-3-3 始良市

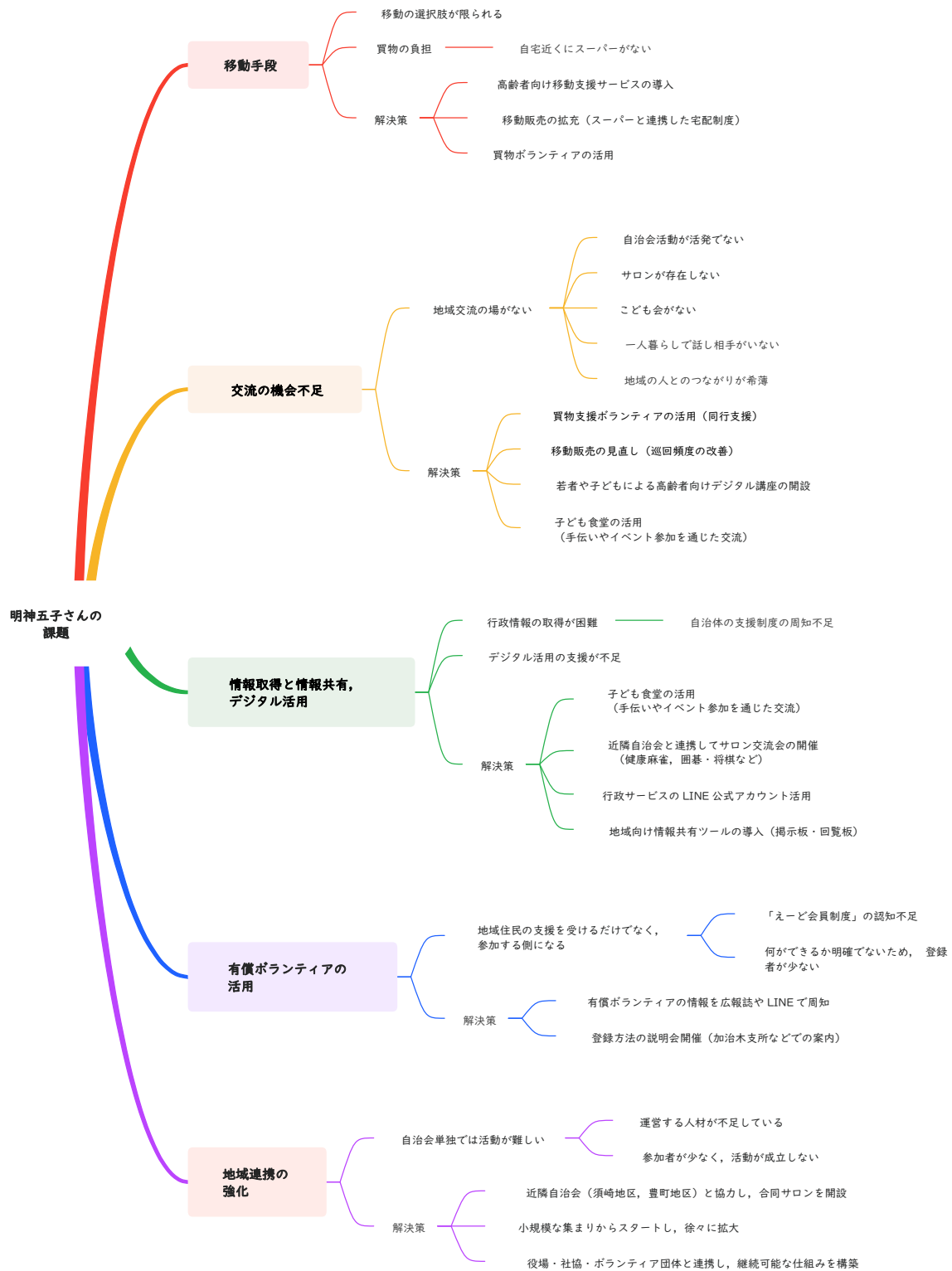
(1) 永瀬自治会

図 6-3-3-(1) 始良市・永瀬自治会のマインドマップ



(2) 明神自治会

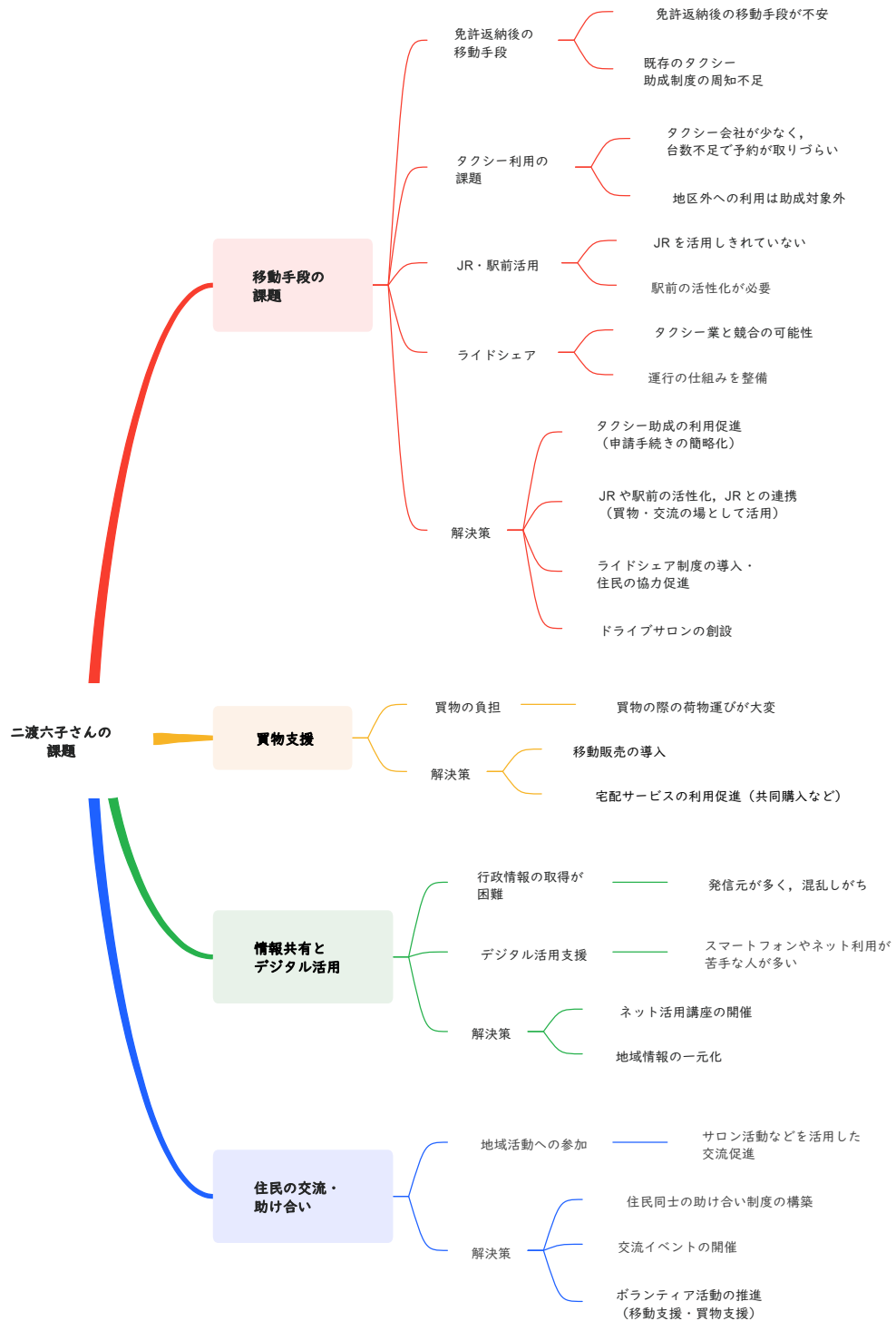
図 6-3-3-(2) 始良市・明神自治会のマインドマップ



6-3-4 湧水町

(1) 二渡自治会

図 6-3-4-(1) 湧水町・二渡自治会のマインドマップ



(2) 麓自治会

図 6-3-4-(2) 湧水町・麓自治会のマインドマップ

